

ゲンジボタル 夜の里山舞う

横浜市の緑地保全地区「瀬上市民の森」(栄区)に隣接する森林に、今年もゲンジボタルが現れた。市内に残る数少ない「ホタルの里」として知られ、多くの見物客が訪れている。蒸し暑い夜、柏尾川に合流する小川「いたち川」沿いの市道で待つと、ゲンジボタルが明滅しながら飛び交った。市環境科学研究所の報告書によると、この地

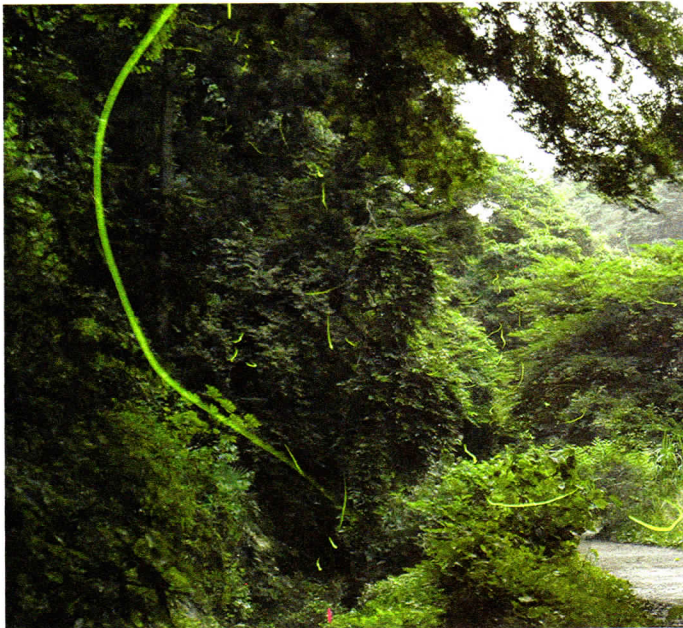
栄区 付近で開発計画も

域ではヘイケボタルも見ることができると。森林は東急建設が取得し、開発のため昨年一月に市に都市計画提案をしており、今後、有識者でつくる都市計画審議会で議論される見込み。提案などによると、取得した三一・九のうちの二・五を宅地などにするものの、「貴重な里山景観を保全する」として、いたち川周辺は保護するという。

住民は、自然破壊や住環境悪化などを理由に反対運動を展開。一部の保護団体が昨年二月に約十一万筆の署名と陳情書を市と市議会に提出している。

周辺には絶滅危惧種のホトケドジョウや準絶滅危惧種のオオタカも生息しており、NPO法人「ホタルのふるさと瀬上沢基金」の角田東一さん(モミ)は「近い将来、人口減少を迎える中、森林を切り開く大規模開発はそぐわない」と話している。

飛び回るゲンジボタルの光跡(長時間露光) 12日、栄区で



(志村彰太)